

Heroldo de HEL 北海道エスペラント連盟

N-ro 65 1996 novembro-decembro

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

053 苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
ĉe Atuŝi HOŜIDA
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053 Japanio

ENHAVO

La Unua Azia Kongureso (Sanhajo) 上海アジア大会 Emiko BABA 馬場恵美子	2
Danke ricevitaj 受領郵便物	4
Funebra parolado pro S-ro EGUCI 追悼の言葉 ~ 江口音吉さんへ Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 Hiroo KODAMA 児玉広夫 Kimiharu KIMURA 木村喜壬治	6 7 8
Kroniko de "讀賣新聞"	9
Novajo 近況だより Letero al estimata amiko, S-ro Takasugi itiro 畏友高杉一郎への手紙 Nagoya, Celakanto (Mituisi K) 名古屋, シラカンス 三ッ石清	10
Informo de Sapporo Esperanto Societo 札幌エスペラント会からのお知らせ 1. 総会 2. 例会開始日 3. 秋季1日講習会報告 Emiko BABA 馬場恵美子	11
Lernado(interpozitivo) ザメンホフを学ぼう(interpozitivoに ついて) Mituisi K 三ッ石清	12
Raporto de la prepara kunsido de la 61-a Hokkajda Kongreso de Esperanto en Asabu LKK(第60回北海道エスペラント大会 麻生開催実行委員会)準備会報告 Eiĝi SATOO 佐藤英治	13

Raporto de la PT(Projekta teamo) 第1回PT報告 Naoto MIJAZAŬA 宮沢直人	14
Raporto de la komitata kunveno de HEL (la 3-a) 役員会報告(第3回) Ejko ABE 阿部映子	16

El redaktejo 編集部から

1996年も余すところあと数日。今年
皆様にとってどんな年でしたか?先日聞いた
ところによると星占いで今年の「やぎ座」の運
勢は12年に1度の大当たりだったそうです。
私の場合はなぜか車にあた(衝突)ってしま
いましたが、非常に軽い怪我で済み後遺症も
ないのは幸運だったと思うしかありません。

小樽の江口音吉さんが11月10日に御逝去さ
れ本紙6~8頁は追悼の頁になっております。

また、本紙10~12頁に原稿を寄せてくだ
った三ッ石清さんからは、歩行が困難にな
つたという便りで驚きました。数年前には、歩
スキーの大会参加のために来道していたのに、
病気が悪化しないことを心からお祈りいた
します。

でも残念なことばかりではなく、11頁の札
幌エスペラント会からのお知らせに記載のと
おり、来年のSES総会時に木村喜壬治さん
の米寿祝を行う等の嬉しい便りもあります。

ところで、1997年の北海道大会は11
月22~24日に決定しました。まだまだ先
と思っていると1年間はあっという間に過ぎ
去ってしまいます。1997年も有意義な年
でありますように。

(Ejko ABE 阿部映子)

上海アジア大会

馬場 恵美子

96年8月21日~25日まで第1回アジア大会が上海市で行われた。全体的な感想を先に述べるならばまずとも家族的な大会であったこと。そして若者がかなり参加していてアジアのエスペラント運動を支える次世代に期待が持てることが上げられる。数年前の世界大会(UK)に参加した経験では開会式はいつも厳かなムードがあった。数千人規模の参加、豆つぶほどにしか見えない壇上の役員。御喋りなんて持ったのほか！空気がピンと張り詰めている。未熟者の私は悲しい思いを随分した。しかしこの上海ではどうだろう！！エスペランティスト本来のどんどん話してみたい人間の集まりのようだ。おそらく初対面同志が親しく笑っているのはアジア人同志の共通感が有るのかも知れない。おまけに年代層も幅広い。日本人参加者同志いつもなら挨拶すらしないのに「この大会良かったよね。」と自然に言葉が出てくる。

札幌を出発する時宿題があった。星田淳氏より上海の消息不明の友人を探しており、もし彼が見つからなければ地元の人間に尋ねて欲しいとのこと。薄情な私は(星田氏はこの宿題におもいきり不機嫌は返事をする私を予想してFAXで連絡をしてきた)10名の上海anokに聞いて無理なら諦めてもらおうと最初から決めて大会受付に行く。1人目「その人は参加していない」2人目「参加はしていないが友人は参加している」3人目「その女性が友人だ」割とあっさり見つかり、任務(?)を果たすことが出来たが自分の不誠実さに少々反省。彼女に消息を尋ねると(星田氏の友人は)1年前に転居したが上海市内に住

んでおり最近も連絡を取ったとのことで電話番号を教えてもらう。明日以降彼女は多忙のためはっきりした予定を立てることが難しいとのこと住所は諦めることにした。それきりすっかり役目を果たしたつもりで宿題については忘れていたが、数日後彼女は私を分科会の席から探し出し改めて住所をもらった時にはびっくりした。彼女に私は自分の名前すら告げずにいたのに、胸の名札の記憶と大会会場のどこかには必ずいるはずと私を探してくれたのだ。地元としての責任を果たしホッとしていたが、私は恐縮と感激でdankon!を繰り返してはいたが(いい加減な自分)恥ずかしい...

ホテルで同室の女性は尾道市出身で今年の日本大会受付などを担当し、食中毒の発生でテンテコ舞いしたことを聞いた。大会会場でも至る所でその話して持ちきりであった。日本人同志顔を見ると「あの後どうだったの?」「元気になった?」saluton!より先にお互いを気遣う光景があちこちに見られた。日本大会に向けて1年以上前から準備・用意をしていた地元にしてもあまりにも過酷な運命である。

「数字はやっぱり難しい」大会後観光の説明会でのこと。この説明会の内容を聞き間違えると目的地に行けないことも覚悟しなければならなくなるので百名あまりが真剣に聞いている。

(路上で売っている食べ物は絶対食べるな、後でお腹が痛くなる。荷物と人間を別々に運ぶので置き場所を間違えると大変なことになるなど)幾つかのコースごとに説明を受けるが(自分以外のコースはもちろん聞き飛ばす)、問題は閉会式後の集合時間と汽車の発車時間。かなり注意深く聞いていたつもりだが、分からなくなった。集合時間より汽車が早く出発してしまう。

質問したいのだが数詞の苦手な私は恥ずかしくて聞けない。すると韓国人男性がその点を質問。説明者がどうも数字を言い間違えたらしいのだが、「そんな風に言った?」と聞くと10名(つまり参加者)が一斉に「言ったわよ!」とわめき会場は爆笑。それで参加者の顔ぶれが分かる。日本人3名、韓国人6名、中国人1名(引率者)。皆個人的でおもしろい人ばかり。

最初に上海に着いた日。空港で手荷物の受取に手間取った事と温度差・水になれず早くもグロッキー。おまけに食卓につくのが遅れた為おいしいものが既に食べられてしまいこのまま部屋に帰ろうかと思っていたら、隣のテーブルで何やら賑やかに缶をあけて赤いものを御飯にのせて食べ、私にもしきりと進める。キムチのペーストだ!これが辛くて甘くてさっぱりしいて実に食欲をそそりポツとした頭もはっきりする。その中に後で一緒に観光する彼らもいた。期間中「芸能の夕べ」で太鼓・鐘で自然(雲・風・雨・雷)を表現して会場を沸かせた。食習慣と言えど一度麺類が出たことがある。箸を上手に使う(韓国では材質は金属とのこと)彼らは「はさみを下さーい」と言って何をするかと思ったら長い麺を切ろうとする。(ウエイトレスは目を白黒させてた)「ここでは習慣が違い切らずにそのまま食べる」と私は言ったが中国では本当はどうだったのだろう。

大会後観光ではしばしば雨に見舞われ足元がずぶ濡れになった。面倒だったので脛を出していたら見事に虫刺され。しかも現地の虫のお好みにあったようで脛はボコボコの状態。見兼ねて韓国人の女性が薬をつけてくれる。そういったチョットとした気づかいがとても嬉しい。年長者に対する思いやりもとても自然で空気を和

やかにする。やはり集中豪雨に見舞われ一時間程お堂の中で雨宿りをしたことがあった。凄まじい雨と風。雷は停電さえも引き起こし蠟燭の炎で雨が止むのをひたすら待った。「ひどい雷だったね。でも中国に来てこれは2度目。1度目は芸能の夕べであなたが演奏で表現してくれたから」日常の会話がとても楽しい。

私自身ウィーン大会以降暫く遠ざかり、会話について行けるか心配であったが120%楽しみ大満足。どうやら味を占めてオーストラリアのUKへも申込をしてしまいました。年齢と共にズーズしさも増し自分の分からない単語を辞書を引くより手っ取り早い相手に聞く作戦に出る用になり、気がつけばやはりエスペラントにはまっている自分がいたようです。

Bonvenon!

Karaj amikoj



*Novajoj Tamtamas:n-ro118, oktobro 1996
毎号A5 X 8頁、全文エスペラント (JER)、
宮沢賢治生誕百年、大相撲の旭鷲山の記事など。
*LA TAMTAMO:n-ro 273, oktobro 1996 (JER)
A5 X 8頁、日本語
*センター通信: 1996年10月28日発行 N-ro193,
Nagoja Esperanto-Centro(名古屋エスペラントセンター) .
B5X8頁、日本語
中級講座: Paroladoj de Zamenhof 講読
*Hokkaidō Rōmazi Kenkyū No.90 (復刊64)
北海道ローマ字研究会発行, Hes. 8n. 10gt. 30nt.
*NOVA VOJO:1996.11(N-ro 313 novembro), 大本
エスペラント普及会, A5 X32頁、内エスペラント
文10頁。Joel Brozovskyの、チェコでの先祖さが
しのおもしろい。
*Mejlstono N-RO 138 NOVEMBRO '96, 仙台 E会
B5X10 頁のうちエスペラント文4頁。
*La Movado N-ro 549 nov.1996, B5版20頁の内
エスペラント文4頁。北海道大会の記事あり。
*Novajoj Tamtamas:n-ro119, novembro 1996
A5 X 8頁、全文エスペラント (JER)。
渥美清の死と寅さん映画について2頁。

*Nekrologo: 山本静子さん
S-ro 山本昭二郎 (小樽) から
年賀欠礼はがき—
「私の敬愛する妻 山本静子は11月15日午後
2時23分、71才で永眠いたしました。病名は
くも膜下出血でした。—」
ご存じの方は少ないでしょうが、30年以上前、
小樽エスペラント協会の全盛の頃D-ro 山賀、S-
roj 高橋 (達治)、山本たちと一緒に学んだ方
です。その頃の機関誌 LEONTODO N-ro4(1952-DEC)
に F-ino S'izuko CUC`IDA の名でIUN TAGON と
いう題の、なかなかきちんとした文が出ています。

日本の原子力政策や歌劇「ひかりごけ」(武田泰
淳原作、戦争末期の知床の難破船での人肉食事件)
の記事もある。

*LA TAMTAMO:n-ro 274, novembro 1996 (JER)
A5 X 8頁: 日本語編集後記に、ベネズエラからの
電子メールで遠藤周作の「侍」のことを教えられ
た話。巻頭にはプラハ宣言(JEIの訳文)。

*ホテルノースシティ「宿泊特別優待券」3枚
シングル ¥5500、ツイン¥9800 (税別)
'97年5月末まで有効(ただし札幌雪まつりと、
ゴールデンウィーク期間を除く)

*NOVA VOJO:1996.12(N-ro 314 decembro), 大本
エスペラント普及会, A5 X32頁、内エスペラント
文8頁。多くの報告者(大久保良、高野春樹、
Joel Brozovsky, MUTA Tetuya, NARITA Kazuko)
による韓国エスペラント大会報告が計12頁。

*写真集「沖縄・戦後50年の歩み」
沖縄県発行、那覇出版社 出版
B4版488頁、カラー384点、白黒992点
の写真入。前号で紹介した写真集をパソコン通信
で紹介した事に対する「謝意」とのこと。

Ĉu vi memoras S-ron 坂東上久根? (葉書到着)
本名は Bernd Wechner, 94年10月ヒッチハイク
で来道、苫小牧、岩見沢、札幌を廻っていった長
身のオーストラリア人。来年のUKの土地Adelajdo
にいるが、UKのときは?? —mi eĉ ne certas
ĉu mi estos ĉi tie dum la kongreso. Mi espe-
ras ke mi povos viziti ĝin tamen. — Salutu
la Hokkajdajn E-istojn por mi kaj mi deziras
mildan vintron, feliĉan novjaron k. t. p. —
とのこと。所でまったく偶然に(tut-hazarde) 東
京の大庭夫妻と Adelajdo で会ったとか。もうUK
準備の下見でしょうか。

*「北海道大会に期待」とELNA-Estrarano

Miko SLOPER よりメール

ELNA (米国エスペラント連盟) の役員 Miko はインターネットのエスペラント・ニュースでも、よく名を見ます。S-ro宮沢から、来年の道大会に来ると聞いたのでメールを送ったら、1時間もたないうちに返事。素早い反応に驚いた。

以下☆は送信、★は受信。楽しみにしていますよね。

☆ 1 96/11/06 96/11/06 06:33

1 Saluton, S-ro Miko SLOPER!/HOŠIDA

Mi aŭdis, ke vi estas pozitiva pri via vizito al nia venontjara kongreso—la 61a Hokkajda Kongreso de Esperanto, en la plej norda Insulo de Japanio. Mi ĝojas, ke ni havos gastojn el trans la Pacifiko.

Mi estas HOŠIDA Acuŝi, la prezidanto de Hokkajda Esperanto-Ligo.

Jam kelkfoje mi legis viajn artikolojn en <soc.culture.esperanto>, aŭdis pri vi de mia amiko OOGA Toŝio, kiu estis kun vi okaze de Tamperea UK.

Prosperon al via afero, fartu bone por viziti nin venontjare!

Sincere via HOŠIDA Acuŝi

★#31013584 96/11/06 07:28:14

発信者: INET#elna@netcom.com ELNA

受信者: MCM63639 星田 淳

文書名: Re:Saluton, S-ro Miko SLOPER!/HOŠIDA Saluton HOŠIDA Acuŝi!

Jes ja, mi ne nur pretas iri al via lando, mi jam ekscitiĝas pri tiu aranĝo. Estos granda plezuro renkonti miajn amikojn japanajn en ilia lando kaj mi antaŭvidas ke mi renkontos multajn novajn amikojn.

Amike salutas vin Miko SLOPER.

*Funebro de S-ro 江口音吉

11月13日小樽市専名寺にて。S-roj 前田、児玉、浜田、星田が参列。星田はHELとして弔辞を読みました。出棺はちょうど吹雪の中でした。なお江口家からHELへ御寄付を載せております(3万円)。故人の遺志を生かすように活用させて戴くつもりです。

*Nekrologo: S-ro 酒井ただす (松江市)

「8月23日に永眠しました。87才でした」との喪中はがきが来しました。ご存じの方は少ないと思いますが、1932年の第1回北海道エスペラント大会の参加者でした。このとき創立された北海道エスペラント連盟の60周年に当たる1992年の第56回北海道大会にはMESAG'0を載せています。ただし第1回大会の出席者名簿では「井上昭月氏・京都・亀岡・エスペラント普及会総本部幹事」となっています。当時はこの名で有名な Esperanto-parolanto でした。(Heroldo de HEL N-ro 43, junio-oktobro 1992 参照) ご冥福を祈ります。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

弔 舌辛 (江口音吉さんへ)

HEL salutas kondolence pro S-ro EGUĈI Otokiĉi

江口さん。

Kara samideano Eguĉi! と、いつものように呼ばせて下さい。初めてお会いしたのも、ここ小樽での北海道エスペラント大会でした。それから43年、いつも国際語エスペラントの催しの中で、先輩として多くの事を教えて戴いたと感じています。

あなたはいつも基本を大切に、地道な努力を重ねておいででした。初めてお会いしたころはまだ外国の同志の来訪も少なかったのですが、その少ない機会があれば、無理してでも都合つけて歓迎の場に出席し、会話の経験を積もうとする、あなたのあの積極性に教えられる人は多かったと思います。

それから次第に国際交流の機会は広がって来ました。大成功だった東京での世界大会。そして13年前、ハンガリー・ブダペストでの世界エスペラント大会に山賀先生とともに参加され、世界の友人と友情を深めて帰国された。その後すぐ北海道自治会館での北海道大会で山賀先生と一緒に報告された、あの時の目の輝きは今も思い起こすこと

ができます。

あなたは一筋の道をまっすぐ歩いておいででした。65年前、奥沢小学校で行われたエスペラント講習会でこの道に入り、そのまま我らの象徴である平和と希望の緑の旗とともに歩いてこられたこと、何度か伺ったことがあります。

この65年は、この国に生きる一人一人にとって、厳しい苦難の歳月でした。しかし江口さんは、いつも民族や国家、思想、宗教の立場を越えて人々を結ぶエスペラント運動の立場に立っておいででした。戦前思想弾圧の時代に職場を追われ、苦しい生活だった仲間にも別け隔てなく接し、生活再建を助けられたのも、そのあらわれかと感じております。

では、江口さん。今、幽明境を異にいたしましたも、我々を更にお見守り下さい。

Adiaŭ, Samideano Eguĉi!

北海道エスペラント連盟 委員長

星田淳

La 10an de novembro en Otaru forpasis nia pioniro, S-ro EGUĈI Otokiĉi(1909~1996) pro malsano. Li eklernis nian lingvon jam en marto de 1931 en elementa kurso ĉe Junulara Societo de Okusaŭa, Otaru. Dum 65 jaroj de tiam, li estis ĉiam fidela kaj diligenta samideano. Li partoprenis en du Universalajn Kongresojn de Esperanto; la 50an en Tokio kun multaj gesamideanoj el Hokkajdo, la 68an en Budapest kun D-ro Yamaga el Otaru.

江口音吉さんを偲ぶ

児玉広夫（札幌）

江口さんが亡くなったという突然の知らせは、去る11月10日夜、千葉縣市川市の高橋達治さんからあった。その2日前に、甥に当たる私の友人、江口正元君から脳梗塞で病状は樂觀できない旨を聞いていたが、こんなに早く旅立たれるとは意外であった。

11月12日のお通夜には、札幌から私、木村喜壬治さん、小淵修子さん、それに切替遼子さんの4人、小樽からは前田幸一さん、山本昭二郎さん方がお参りに来ていた。

また、翌日の告別式には、北海道エスペラント連盟を代表して、苫小牧の星田会長から弔辞が述べられ、また、岩見沢市からも浜田国貞さんが馳せ参じてくれた。

今、振り返ってみて、江口さんは、あの道新の「死亡広告」欄に紹介されているように、本当に薬局業に専念の傍ら、エスペラントをこよなく愛し続けた生涯であったと申せましょう。そして、私にとっても、江口音吉さんとの最初の出会いは、昭和23年夏、小樽エスペラント会の会合に、あの片田舎、由仁町から今は亡き新田為男さんに引率されて他の4人と共に参加した時であった。その時、山賀 勇先生、江口音吉さん、高橋要一さん(その時はまだ小樽在住か?)方がエスペラントを流暢に話されていたのに、すっかり魅了させられたことを覚えている。その時以来、私は札幌に移り住んでからも、ときに単独で、時には今は亡き今村 元君(当時は北

大生)と小樽のザメンホフ祭に何回か参加させていただいたことが忘れられない。

満面笑みをたたえ、先輩として暖かく励ましてくれた江口さんの在りし日を偲びつつ心からのご冥福をお祈りしたい。

以上でお分かりのように、私と江口さんとはエスペラントを通じ約半世紀にわたるお付き合いであるが、そのうちの1、2をここで紹介してみたい。

その一つは、昭和40年、アジア最初の世界大会が東京で開催されたおり、江口さんが戦前から長い間文通を続けていたハンガリー女性のその娘さんが、東京大会に参加され、やっとの思いで感激的な対面を果たすことができたことの喜びを私に語ってくれたことです。そしてその2は、あれから18年後の昭和58年、江口さんは山賀先生とご一緒に、ハンガリーのブタペストで開かれた第68回世界大会に参加され、彼女と二度目の再会を果たし、その家庭を訪問したり、また、山賀先生も家族同様のお付き合いをしていたハンガリー宅に江口さんも一緒に泊まり込んだりの、エスペランティストならではの経験できない素晴らしい思い出を、熱っぽく語ってくれたことが思い出されます。

このように、江口さんの寄せたエスペラントへの情熱は、わがエスペラント界のみならず、広く小樽市民の関係者もご存じのようで、お通夜の席の住職の説話の中でも、また、小樽業界代表の述べられた弔辞の中でもこのことが言及されていた。終わりに、*"Dormu pace, Ripozu trankvile, sub la verda stelo !"*

江口音吉大兄に捧ぐ

言の葉の壁をこぼちて国民をくにたみ

兄弟姉妹にするエスペラント語はらから

第三回道大会で友となり

六十余年はやも過ぎたり

訪れし他国の友をいざなひて

名所めぐりを貴兄きみといくたび

幾千の国民くにたみつどひエス語もて

話す感激よろこびたとふすべなし

エス語の芽吹きそめしかば華をみる

日は遠からじ貴兄きみに知らせむ

Sinjoro, Vivu nun en Paradizo !

gis reridos.

清書したものを遺族の方へ「初七日にでもお供えしてください」と送りましたら、ていねいな喜びの返事を頂きました。

木村喜壬治

夫江口音吉儀入院加療中の処十一月十日午後四時
 家業の傍らエスペラントをよく愛し続けられたました
 ここ生前のご厚情を深謝し謹んでお知らせ申します
 おつて葬儀は左記の通りそれぞれ執り行います

通夜 十一月十二日 午後六時
 葬儀 十一月十三日 午前十一時(指生) 場
 一式場 専名寺 小樽市奥沢一丁目二十五番十二号 式場
 平成八年十一月十一日 小樽市奥沢一丁目二十四番三十一号 0134
 隆同郎代 1407

葬儀委員長 奥沢町会長 外主 江口親江 紙戚口口 文一慧八千代

北海道新聞11月12日おくやみ広告

国家や民族の壁を破って人々を結ぶようとして作られた国際語「エスペラント」は、一八七七年の発表後しばらくは、欧米を中心として広がりました。もともと、ヨーロッパの言葉を整理して簡単にした言語と言えませんが、これも当然でしょう。しかし、それから百年を経た今、少し様子が変わってきました。毎年開かれる世界エスペラント大会も、初めは欧米の都市で行われていたが、一九六五年の東京以来、八六年北京、九四年ソウルと、アジアでも三回開かれました。

エスペラント

国際語 交流広がる

ぶ
ん
か

大会は、初めて大洋州(オーストラリア)で開かれる予定です。エスペラントは、その本来あるべき世界的な言語になることを目指しています。このことは使われる分野も変わりつつあります。文通、出版、放送などには以前から使われていたが、この三つがますます充実してきたインターネットは、世界中に散らばっている我々にとって実に役立つ道具です。ところで、このインターネット加入者はホームページ閲覧が三、電子メールを使う人は少数との記事が地方紙にあり、驚きました。

私の場合、できる限りへは電子メールで送りまします。封筒に入れ、切手を張りポストへ行く手間は要りません。全部自分の部屋のコンピュータの前で済みます。このごろの実績を見ると、ひと月の発信が五十七通、受信が三十一通、

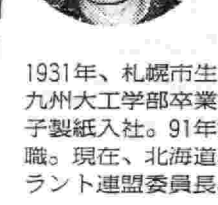
通ぐらい。それだけ郵便の利用は減りました。ネットワーク(コンピュータ通信網)上で使うエスペラントの辞書を作っているとき、言語学上の用語がわからず、ふとヘルシンキ

インターネット効果も

市民団体と連携の道内大会

て、インターネットにホームページを出しました。アイヌ語についてのページは、あるいは世界最初かもいれませんか。ただ、大学祭の間だけで終わったのが残念で、今、再掲載はできない年の任期の間、我々がいい

「街角からの国際交流」というこの大会は、一般市民有志にも参加を呼びかけて、今までの大会とは少し違ったものになりそうです。ELNA(米国エスペラント協会)のミーコ(本名はマイケル)が参加してくれる、とのこと。電子メールで歓迎の文を送りました。彼の名はよくインターネット・ニュースで見えたので。



ほしだ あつし
星田 淳

1931年、札幌市生まれ。九州大工学部卒業後、王子製紙入社。91年定年退職。現在、北海道エスペラント連盟委員長。

読賣新聞
12月11日
北海道
12版

〈近況だより〉
(畏友高杉一郎への手紙)
名古屋、シーラカンス ミツ石 清

S-ro Takasugi itirô

1996-nov.-29

Nagoya, Celakanto (Mituisi k)

Kara kaj estimata sinjoro,

Jam de longe mi ne skribis al vi, kvankam en la koro ĉiam estas via figuro de samideano en la vilao ĉe la piedo del' monto Asama. Estas ĝoje trovi vin kun Li Naixi sur la 8-a paĝo de EPĈ (aŭg. 96). Tiurilate mi kore vin gratulas, tamen estas iomete bedaŭre ke apud la foto ne estas komento de "japana samideano", vi.

Ankaŭ la artikolo <Hujucz> (sept. 96) min ĝojigis. Vere leginda! Nome li staranta antaŭ Angla ŝipo ĉe kajo del' haveno Singapour (junie 1948) ĉarmis min pro sia intelekta trajto, Por la unua fojo mi vidis tian foton de li en ĵurneco. Ree temas pri Li Naixi. Mi memoras ke vi skribis al mi detale pri la renkontiĝo kun li en Pekino. De la tagoj ankaŭ lia figuro kune kun tiuj de grandaj Hujucz kaj Jelezo vivis en mia koro.

Hieraŭ, estante en la ĉambro de "day-care service" de <Speciala Hejmo de Vartataj Maljunuloj> mi entuziasmiĝis en legado del' numeroj, kiujn uun jaron mi lasis ne legi. Ĝis nun mi kutimis legi gazetojn en mia domo, ĝis postnoktmezo, eĉ ĝis krepusko. Sed laŭ irado de kadukiĝo mi jam ne kuraĝis legi tra la nokto. Konsekvence EPĈ kaj aliaj gazetoj kovriĝis per polvo. Mi ŝanĝis vivmanieron. kaj hieraŭ ilin portis al Hejmo de Maljunuloj (Sub oficiala aranĝo del' Urba aŭtoritato mi nun vizitas al <day-care service> per aŭtbuso de Hejmo, dufoje ĉiusemajne. -iri, gimnastiki, baniĝi, tagmanĝi, amuziĝi, reiri-)

Kara samidenao, Hieraŭ nokte mi komencis legi, vere nur foliumi dikan verkon <RUGĜOMA SONGŬO> (vol.1) de Cao Xueqin. Aŭguste mi ĝin mendis al JEI kaj antaŭ tagoj mi ĝin enmanigis. Ĝojinde! Sur la librobreto jam vidiĝas LUSIN, MIRRAKONTOJ de Liaozhai, KAMELO SJANGZI de LAU ŜE kaj aliaj ĉinaj literaturaĵoj. Ĉi-jare mi entuziasmiĝis en legado de MIRRAKONTOJ kaj Dekamerono de Boccaccio.

Mi sabotis verki Esperante. Al belarta konkurso de JEI en Hirosima-kongreso mi ne sendis mian noveleskan eseon <Rakonto de iu vagabondo>, kvankam kun ideo varbiĝi kaj gajni ian premion, jam unu jaron antaŭe, mi pagis la kotizon, sed mi ne iris al la kongresejo. Kial? Tial ke JEI strange mian premiitaĵon ĉe Yokohama kongreso ne surpagis sur R.O, pri kio mi plendis kaj plendas.

Vi volu min pardonu pro la senorda, longa babilado, por kiu vi rajtus ne min respondi. Estas petata de mi nur <tralego>. Koran dankon al viaj okuloj!

_____ samideane, via 83-aga CELAKANTO, M.K

小生は脚が不調です。歩行が困難になりました。難病のパーキンソン氏病の兆候があります。もし、これが手にきたらもう原稿は送れません。

Heroldoに書くのが生き甲斐の一つです。 シーラカンス生



Informo de Sapporo Esperanto Societo

ホシトリスエスペラント会から

Emiko BABA 馬場恵美子

♪ 総会のお知らせ

2月8日(土) 1時~4時 かでる2・7 8階
会計/活動報告ほか。木村喜任治氏米寿祝。
直接会場へ。(質問照会は馬場まで電761-8060)

♪ 年頭の例会開始日について

1月11日(土)1時~4時 かでる2・7 9階

♪ 秋季1日講習会報告

11月16日(土) 1時~4時 かでる2・7 女性プラザ
Rekta metodoによる口馴らし、相関詞表を使った作文(宿題)、エスペラントの表現方法など
講師 星田淳 参加費500円 参加者15名

初めての試みに好評であった。終了後有志で
食事。来客者の対応について話し合いが持たれた。

文法入門
(INTERPOZITIVOについて)

三ツ石 清

interpozitivo とはあまり、皆さんに、馴染みのない文法用語であるが、名詞+前置詞+名詞の形で、この場合、名詞は同じ名詞である。一種の副詞句である。

Zamenhof uzis la interpozitivon preskaŭ ĉiam en nominativa formo. ekz. "mano en mano" "paŝo post paŝo" (PIV 437p)

用例を示す。私は参加しなかったが(会費は送った)送られてきたアジア大会の KONGRESA LIBRO の6頁を開いて、すっかり喜んだ。大会名誉議長、作家の巴金の挨拶が載っている。

Saluto de Bakin

Esperantistoj de Ĉinio kaj aliaj landoj de Azio kreu ĉu "mano en mano" superban 21-an jarcenton

Gratulon al la 1-a Azia Kongreso de Esperanto

Bakin, la 18an de julio 1996

この mano en mano に注意してください。前の mano が manon でなく、n (対格を示す) が付いていない。この<手に手をとって>の意味の句を、manon en mano と、日本エス界と世界エス界の大部分の人が書く傾向があるが、私はザメンホフ忠実主義者ですから、こうした場合、前の名詞には、n を付けません。この Interpozitivo の N の付かない形に初めて気づいたのは25年前の、ザメンホフ訳ハイネの詩からです。

El Heine'

En songo princinon mi vidis
Kun vangoj malsekaj de ploro,
Sub arbo sub verda ni sidis
Tenante sin koro ĉe koro.

* * * * *

中国のエス運動史について、日本の諸君が知識を持っていることは大切です。それで説明を付けた。

- Li Naixi - 李奈西 (1908~) 元 EPC の編集長
エスペラント教育家
- Jelezo - 葉頼士 (~1993) 中国文字改革委員会主席、
元 CEL 主席 胡愈之の協力者
- Lusin - 魯迅 (1881-1936) 革命作家、エスペラント運動の強い支持者、エロシェンコの友
- Liaozhai - 蒲松齡<聊斎志異>の著者
- Lause - 老舍 (1898~) 文革中に自殺 <駱駝祥子>の著者
- Caoxueqin - 曹雪芹 <紅樓夢>の著者
- Hujucz - 胡愈之 (1896-1986) 革命家、中国エス界の巨人、運動創始者、中国政治協商会議主席、元 CEL 主席

1887年ザメンホフ：<第一書>
Fundamenta Krestomatio(306p)

ここでザメンホフは <koro ĉe koro> と n を付けずに書いています。このことは、ほとんどの人が知りません(ちょっと威張らして下さい)。
<注意>私は、Interpozitivo の場合、前の名詞に n を付けるのを、間違いだと言主張していません。n を付けて manon en mano, brakon kun brako と書くのも良いでしょうが、逆に mano en mano, koro ĉe koro の形は間違いと言うのは困ります。
バラングヤン(故アカデミー会長)も n を付けなかった。先日、藤本達生君からのハガキに、n のない用法の句があり喜んだ。
<註>このハイネの詩は、井上正蔵の名訳 <ハイネ詩集>の66頁にあり。この詩は、地下に眠る王妃が夜中に墓から現れて、恋人の忠実な騎士と抱擁する場面となる(第3句参照)

<余談>私は、巴金先生と35年ぐらい前、アジアアフリカ作家会議(東京で開催)で、(当時、清水港で港湾労働者であった)高杉一郎、作家、静大教授の招きで上京、その紹介で、会場でこの高名な中国の作家と握手を交わした。巴金作品の熱心な読者として光栄の限りであった。(96-dec-01)

L K K (第61回北海道エスペラント大会麻生開催実行委員会) 準備会報告
Raporto de la prepara kunsido de la 61-a Hokkajda Esperanto-
Kongreso en Asabu

[日時] 11月05日(火) 午後7時~9時

[場所] 札幌北区 喫茶ひらひら

[出席者] 大鋸 敏雄、木村 園子、後藤 丈次 佐藤 英治、宮沢 直人

[議事内容]

*準備会から正式に委員会として発足を決定。役員について以下のように分担することになった。

委員長 佐藤 英治

顧問 星田 淳

事務局長 後藤 丈次 事務局次長 宮沢 直人

*大会開催期日は11月22,23,24日を予定しており、次期HEL役員会にて決定の見込み

*青年エスペラント連盟編集会議同時開催の件

北海道エスペラント大会の名称が Hokkajda Esperanto-Kongreso となっているが、第59回大会で可決された Hokkajda Kongreso de Esperanto が正式名称。

[次期委員会期日]

次期HEL役員会報告後、決定予定

次回大会に望むもの

佐藤 英治

L.K.K.をSAT札幌として初めて引き受け、Projekta Teamoとならんで大きな任務を背負うことになった。私はこれを重荷と考えずに、むしろエスペラント運動を活性化すべく試みとしてとらえ、わいわいと楽しみながら実行できたらと考えている。

L.K.K.やP.Tは将来エスペラントを担うことになる若い人たちが集まり運動に活力をもたらすことを主な役割としている。次回大会が若い人々の枠におさまきれない自由な活力までも包括し、希望も持てるきっかけとなるなら大成功と言えるだろう。

大会ではエスペラントはすばらしいという一方的な宣伝を避け、あらゆる言語使用者の参加を呼びかけ、真剣に言語問題を考え自由に議論する場を提供する。言論の「自由市場」でエスペラントの長所と短所も計られるだろう。しかしそれでもなおエスペラントが魅力あるものと感じとられれば十分な成果だろう。一部の人たちにとって説得力を持ちうる議論は他の多くの人々にも説得力を持ちうるのである。量より質を大事にしたい。

3年前私はアジア、ヨーロッパを3,4カ月旅行し様々なエスペランティストたちとも交流をした。場所は違っていても世界はひとつと感じた。しかしあらゆるところで共通に感じたことは、東欧「社会主義」諸国が消滅した後、特に若い人たちが理想というものを捨てなくなったことである。こういう時代にこそザメンホフの理想がどのくらい通用するのを見極めてみたい。

また多くの人々にエスペラントを認知してもらうため、議員や諸団体が大会に関心を持つよう促すことも検討している。多くの協力者の参加を望みます。

やりたいこと、いっぱいあるね

第一回プロジェクト テアーマ報告 (1996.11.29 喫茶エスペラントにて)

参加者：星田淳 大鋸敏男 佐藤英治 権野正浩 後藤丈次 宮沢直人

とりあえず、可能不可能を問わずにやってみたいことを出し合いました。なかでも一番実現性があり、必要性もあるのが宣伝パンフを作ったり活用することについてでした。もちろん激論のシーンもありました。2次会は近くの居酒屋で焼酎を飲みながらエスペラントビデオの構想までとびだしました。次回日程は未定です。連盟委員会で次回についての日程や方向性を決めたいと思います。(文責 宮沢直人)

1. JEI パンフの活用

JEI 発行の宣伝パンフ「地球は僕らの夢中船」の在庫がまだあるか、またいくらで手に入るのか不明なのでまず調べてみる。

場合によっては連盟で増刷りも可能では。

どちらにしても連盟ないしは地方会、個人の間合せ先を刷り込んだ宣伝パンフを常備し、さまざまな活用法を考えたり、効果的な例を伝えることは重要ではないか。(運動を外向きにしていく上でも)

公民館や図書館、喫茶店など、パンフを置いてもらえるところ、置きたいところをリストアップしてみても。

その際、専用のラックまたはぶら下げて入れておける封筒なども作って、しゃれたものにすれば、お店にも置いてもらいやすいかもしれない。

2. 連盟独自の様々なパンフの作成

JEI パンフは、誰にでも納得できるようにできている。ということは逆に、誰にとっても物足りないものでもある。一人一人の興味や生活にあった特色ある様々なパンフがあってもいいのではないか。

その際、いろいろなところに置いて、恥ずかしくない、かわいい、捨てにくい形や装丁を工夫するべきだろう。

内容については、沼津エスペラント会の2種類の宣伝パンフを1冊に編集してポケット本にする、昔のセーモのようなミニ和エス辞書、プラハ宣言の日本語訳あるいは解説的要約などをもし1冊にできたらという案がでた。

プラハ宣言については、エスペラントの直接の宣伝用ではなく、異文化交流の際に念頭におくべき未解決の問題を提起している文書として、国際交流や少数民族問題にたずさわる人々、この問題に興味ある市民に普及することも可能であり、意義があるのでは。

3. 医療用対訳集

お腹が痛いとか具合が悪いときのための対訳集が、他の言語では出ている。緊急事態

をうまく説明できるようになりたいし、来日したエスペランティストもそういうものが必要ではないだろうか。

4. インターネット利用の情報提供

各地方会や各講師によって学習会もいろいろ特色が違って来る。道内のエスペランティストも趣味や専門は多彩なものがあるはずだ。自分の趣味や関心にあった学習会への参加やネットワーク作りに役立つ情報をインターネットを利用して流せないだろうか。

5. 海外活動への援助

毎年、北海道から海外のエスペラント運動、講習会に参加している人たちがいる。簡単な報告はあるものの、参加者がいたことが知らされていないこともあった。エスペラント運動は、個人の自由な参加と意思によるものだという原則にしつつも、個人にとって精神的な負担にならない形での組織的支援があってもいいのでは。これまで何回か行われてきた世界大会前の準備講習会はとてもよいし、思い切って奨学金制度も考えてみてはどうか。

REKLAMO (沼津エス会)

エスペラントを学ぶすべての人に自信をもって贈る新独習書

「はじめてのエスペラント」

A 5判 400ページ 2,266円(本体2,200円) ISBN 4-88887-003-9-C1087

藤巻著 (財)日本エスペラント学会 11月1日発売

辞書なしですらすら読める

読みながら自分の視野がぐんぐん広がることが実感できる

実感できるから、学習が楽しい

楽しいからこそエスペラント

エスペラントだからこそできる、まったく新しいタイプの独習教材

注文先は

(財)日本エスペラント学会

162新宿区早稲田町12-3

電話03-3203-4581 / ファックス03-3203-4582

5月の合宿の図書
販売時に取り寄せる
予定ですが、早く読
んでみたい方は直接
J E Iにお申込みく
ださい。

第3回委員会報告

Raporto de la 3-a komitato kunveno de HEL

[日時] 12月20日(金) 午後7時20分～9時半

(午後6時からの予定であったが、雪による交通渋滞等のため6時25分頃から一人二人と集まって、会が始まったのは午後7時20分)

[場所] 札幌駅西側ライラックパセオ(8時終了のため以降は地下1階の飲食店に移動)

[出席者] 星田 淳、サトウエイジ、宮沢 直人、阿部 映子、大鋸敏雄、上西(サトウ)、宮沢の知人でこれからエスペラントを学びたいとのこと)

残念なことに、渡辺晋道は寺で通夜のため欠席

[議事内容]

*LKKのサトウエイジから13頁掲載のとおりLKK準備委員会の報告があり、委員会で下記を了承。

97道大会の日程は、11月22日(土)、23日(日)、24日(振替休日)

地方自治体等にもLKK事務局から働きかけたい。

*新年講習会と新年会

教育部長渡辺晋道が欠席のため詳細までは決定できなかったが、詳細が決定したら、HEL会員にハガキ又は封書で連絡する。

[新年講習会]

日時は、1月18日(土)午後から19日(日)昼過ぎの予定

会場は、札幌市内の予定

講師は、セルゲイ・アニケイエフ氏ほか
内容は、rekuta metodo(アニケイエフ氏)と debado (デバド、討論。北大生中心とSAT中心の2グループに別れて「有機農業について」をテーマに討論し、どちらの説明が説得力あるかを周りで判定する)が予定されている

[新年会]

日時は、1月18日(土)の予定

会場は、札幌市内の予定

どちらも、日時は「予定」となっているが時間は未定でだが日は決定と考えて、参加できるよう都合を練り合せてその日は空けておくようお願いいたします。

なお、第2回のLKKは19日の講習会終了後に開催するので、多数の参加を希望。

*北海道合宿については、教育部長渡辺晋道が欠席のため、次回(2月)の委員会で話し合うことになった。

*PT(Projecta Teamo)について宮沢直人から、14頁15頁掲載のとおり報告及び提案があり、パンフ作成についてはHEL事務局とLKK(道大会時外部向け宣伝の必要)が協力して予算を含めて検討し、次回委員会に提出することとなった。パンフ作成以外の提案については、さまざまな方法について今後考えていく。

*次回(第4回)委員会

2月14日(金) 午後6時～

札幌駅西側ライラックパセオ

議事内容

合宿計画、LKK報告、パンフ作成、[H.de HEL N-ro 66]の校正、その他
委員以外の方の参加歓迎。

なお、[H.de HEL N-ro 66]の原稿締切は2月7日、発行予定は2月下旬。

Heroldo de HEL
第65号(1996.12.25)
北海道エスペラント連盟機関紙
編集部
〒001 札幌市北区北12西1パークMS602
阿部映子気付 電話011-756-2291
郵便振替口座
02700-6-17075
北海道エスペラント連盟